



第4回

# 能楽祭

お客様へ日頃の御礼を込めて

日時／平成27年6月24日(水) 開演 14時30分(開場13時30分)

会場／宝生能楽堂 東京都文京区本郷1-5-9

入場料金	[パーティ付]	
	◆SS席	8,000円
◆S席	7,000円	10,000円
◆A席	6,000円	9,000円
◆B席	4,000円	7,000円
◆普及席	2,500円	5,500円

[全席指定]

※障害者割引あり…詳細は能楽協会(03-5925-3871)までお問合せ下さい。  
※パーティ付チケットのお申込は20歳以上の方に限らせて頂きます。

チケット取扱

平成27年2月6日(金)午前10時より発売開始

〈6月19日(金)まで取扱い〉

- ◆チケットスペース 03-3234-9999 (有人対応) [月～土 10:00-12:00 / 13:00-18:00]
- ◆カンフェティ★ 0120-240-540 (有人対応) [平日 10:00-18:00]

〈6月21日(日)まで取扱い〉

- ◆チケットぴあ★ 0570-02-9999 [Pコード 441-495]  
ぴあ全国各店舗 サークルK・サンクス/セブンイレブン
- ◆宝生能楽堂 窓口販売のみ [火～日 10:00-17:00]

★印: ネット販売あり

※上記を過ぎてからのチケットは、当日券扱いとなります。ご購入については能楽協会へお問合せ下さい。  
※販売期間にかかわらず、チケットが売り切れ次第、販売を終了させて頂きまますので、予めご了承下さい。

- 能 殺生石 女体 香川靖嗣
- 狂言 酔 薑 野村 萬
- 独吟 弱法師 梅若玄祥
- 一調一声 玉 葛 種田道一 成田達志
- 仕舞 実盛 高橋 章
- 舞囃子 加 茂 辻井八郎

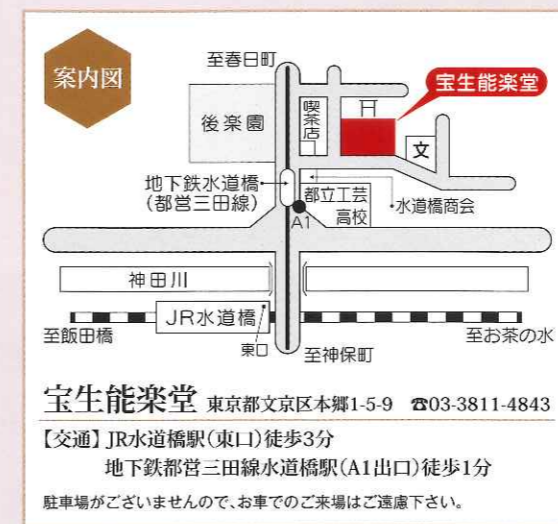
主催/公益社団法人能楽協会  
協力/宝生能楽堂  
特別協賛/サントリーホールディングス株式会社  
協賛/京都烏丸三条十松屋福井 株式会社繪書店  
株式会社わんや書店 有限会社もちや

2015年

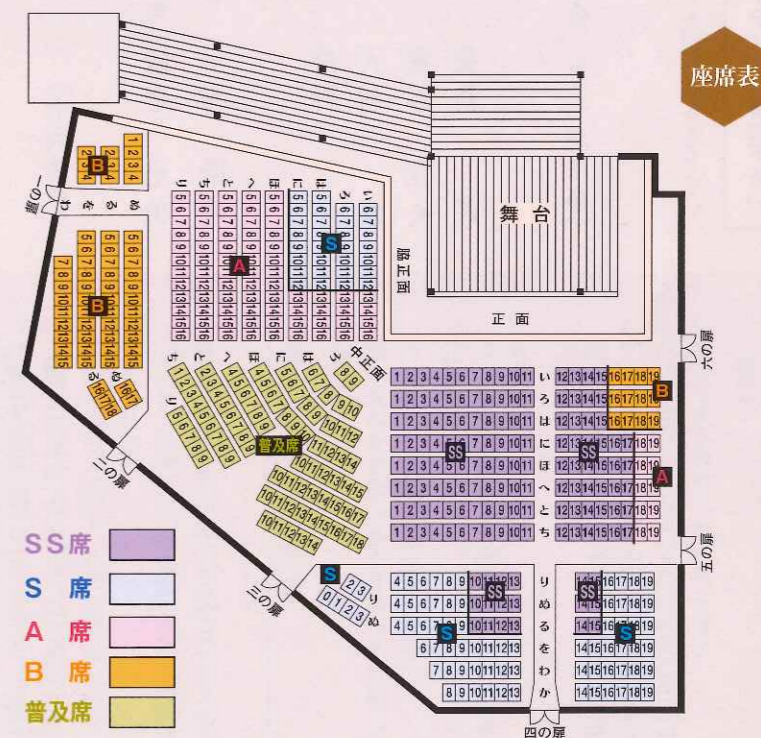
6月24日(水)

開演 14時30分  
(開場 13時30分)

## 宝生能楽堂



※場内での撮影・録音・録画は固くお断り致します。  
※場内での時計のアラーム、携帯電話などの電源はお切り下さいませようお願い申し上げます。  
※出演者は都合により変更させて頂く場合がございますので予めご了承下さい。  
※開場前のご来館につきましては、能楽堂館外にてお待ち頂くこととなりますのでご承知お下さい。



能楽へのご支援に感謝申し上げ、  
本公演限りの特別なおもてなし

- ・ご来場者へドリンクサービス。
- ・ご来場者を対象としたお楽しみ抽選会の実施。  
「式能」チケット、出演者サイン入り色紙ほか素敵な景品が当たります。
- ・パーティ付チケットをご購入の方は、抽選会后、能楽堂ロビーにて出演能楽師と語り合えるカクテルパーティにご参加下さい。

主催・問合せ/公益社団法人能楽協会  
TEL 03-5925-3871  
<http://www.nohgaku.or.jp>

能楽協会では、チケットの販売を致しておりません為、上記取扱所にてお求め下さいますようお願い申し上げます。

# 第四回 能楽祭

御挨拶

公益社団法人能楽協会  
理事長 野村 萬



能楽は、時に盛衰消長こそあれ、その時代に生きる人々によって支持され受け継がれ、六百五十年の時空を超えて現代に生きる芸能であります。戦後間もない一九四五年秋に設立された私ども能楽協会は、その振興と発展を責務として、微力ながら日々邁進しているところでございますが、その目的がいくばくかでも成しえているとするならば、それは他ならぬ皆様のご支援・ご指導あってこそでございます。この度、常日頃より能楽を、そして演者である私どもを支えて下さっている皆様への感謝を込めて、「第四回能楽祭」を開催させて頂く運びとなりました。組織を上げての公演に、出演者一同心して勤める所存でありますので、何卒宜しく御高覧下さいませよう御願ひ申し上げます。

## 番組

(開演 十四時三十分)

解説 親世 喜正

舞囃子 (金春流)

## 加 茂

辻井 八郎

大鼓 佃 良太郎 大鼓 大川 典良  
小鼓 田邊 恭資 笛 藤田 貴寛

地謡 中村 昌弘 高橋 忍  
政木 哲司 本田 光洋 山中 一馬

仕舞 (宝生流)

## 実 盛

高橋 章

地謡 小倉伸二郎  
前田 晴啓  
金井 雄資  
金井 賢郎

一調一声 (金剛流)

## 玉 葛

種田 道一

成田 達志

独吟 (親世流)

## 弱法師

梅若 玄祥

狂言 (和泉流)

## 酢 薑

シテ(酢売り) 野村 萬

アド(薑売り) 能村 晶人  
後見 野村太一郎

休憩二十分

能 (喜多流)

香川 靖嗣

ワキ(玄翁和尚) 森 常好

アイ(玄翁ノ能力) 大藏千太郎

大鼓 國川 純 大鼓 親世 元伯  
小鼓 大倉源次郎 笛 一噌 隆之

## 殺生石

女体

後見 中村 邦生 狩野 了一  
大島 輝久 金子敬一郎 大村 定  
地謡 友枝 雄人 粟谷 能夫  
内田 成信 長島 茂

附祝言

(終演予定 十七時十分)

## 終演後、客席にてお楽しみ抽選会を実施

(チケットの半券が当選番号確認のためになりますので大切にお持ち下さい)

パーティチケットをご購入の方は、抽選会後、能楽堂ロビーにて出演能楽師と語り合えるカクテルパーティにご参加下さい

## 加 茂 (かも)

京都の加茂(賀茂)神社にまつわる神話を主題とし、別雷神の豪快な舞が見どころ。播磨国の神職に問われた里女は、神社の祭壇に祀られる白羽の矢と縁起について語り姿を消す。やがて別雷神が登場し、雷を擬した力強い拍子を踏んで神威を示しつつ虚空に飛び去り消え失せる。

## 実 盛 (さねもり)

「朝長」頼政」とともに「三修羅」と呼ばれる難曲。他阿弥上人が加賀国篠原で説法をしていると、余人には姿の見えない老翁が毎日聴聞に現れる。不審に思い問ったところ、斎藤実盛の亡霊だと打ち明け消え失せた。夜もすがら回向をする上人のもとへ、在りし日の姿で現れた実盛は、鬢髭を墨で染めて奮闘した篠原の合戦を物語る。

## 玉 葛 (たまかづら)

「源氏物語」を題材とし、妄執に乱れ狂う玉葛の姿を描く。初瀬の長谷寺へ向かう僧が出会った女は、古歌にも詠まれた二本の杉へ僧を案内する。女は玉葛の数奇な運命を語り、自分がその亡霊であることをほのめかし消える。僧が吊つうち、玉葛の亡霊が現われ恋の迷いに苦悶する姿を見せるが、やがて妄執も晴れ成仏する。

## 弱法師 (よろぼし)

清らかな心を持つ盲目の少年を描いた雅趣に富む作品。河内国高安通俊は、ある者の讒言を信じて我が子俊徳丸を追放したが、後悔して天王寺にて七日間の修行を営む。そこへ弱法師と呼ばれ、盲目の乞食となった俊徳丸が辿りつき、かつて見た美しい景色を心眼に受けとめ舞い狂じる。我が子と気付いた通俊は、俊徳丸の手を取り故郷へ帰って行く。

## 酢 薑 (すはじかみ)

都で薑売りと酢売りが出会い、それぞれの由緒を主張する。お互い譲らず、道中も秀句を競って言い合つが勝負がつかない。二人は、昔から酢薑といつて、酢と薑は互いに必要な食物なので、今後は相商いしようと呼び合つて笑合つ。

## 殺生石 女体 (せっしゅうせき にょたい)

下野国那須野の殺生石伝説を基にした人気曲で、ダイナミックな演出が魅力。玄翁和尚が那須野の原を通りかかると、里女が現われ殺生石の由来を語り始める。昔、鳥羽院に仕えていた玉藻前は、実は妖狐で、帝に害をなした為に陰陽師・安倍泰成に正体を見破られて退治された。しかし、その執心が石塊となり今なお殺生を続けているという。女は自分がその石塊であると正体を明かし姿を消す。玄翁が仏事を営むと、石が割れて妖狐の霊が現われ、那須野の原で武士に退治されて石塊となった後も人畜に害を加えていたことを語るが、ありがたい仏事を受けたので、この後悪事は致すまじと誓い、消え失せる。

今回は「女体」の小書の為、通常と扮装が異なり緋の長袴となる。その扱いも見どころである。

## ◆上演形式の説明

### 「舞囃子」

能一曲の見せ場にあたる部分を地謡と囃子の演奏に合わせて一人ないし複数人で舞う。

### 「仕舞」

能一曲の特定部分を地謡に合わせて一人ないし複数人で舞う。

### 「一調一声」

謡い手一人と鼓一人が、能一曲の特定部分を演奏することを「一調」という。謡い手、囃子方共に一定以上の技量が求められる。囃子方では重い扱いとなる。更に鼓のみの独奏の部分があるのが「一調一声」である。

### 「独吟」

一曲の特定部分を囃子の演奏を伴わず一人で謡う。